

# 平成29年度 赤穂市立塩屋小学校 学校関係者評価

学校名 赤穂市立塩屋小学校

## 1 本年度の学校経営方針

### (1) 教育目標

ともに学び、仲よく遊ぶ児童を育てる ～自ら考え、学び合い、希望を高く～

### (2) 校訓

【明く】

【清く】

【強く】

#### めざす学校像

- 1 保護者、地域とともに歩む学校
- 2 安全・安心の保障された学校
- 3 環境が整備されたうるおいのある学校

#### めざす児童像

- 1 あいさつができ、友とわかり合う子
- 2 真剣なまなざしで学習にのぞむ子
- 3 健康で明るく元気に遊ぶ子

#### めざす授業像

- 1 児童全員が主体的に参加する楽しい授業
- 2 児童同士の関わり合い、学び合いがある授業
- 3 言語活動を通して、伝え合う力を高める授業

#### 求める教師像

- 1 とことん児童に関わり続ける教師
- 2 常に授業の向上を目指す教師
- 3 児童の人権を大切にす教師

### (3) 学校経営の基盤とするもの

- ・ 人権尊重の精神に立つ学校づくり
- ・ 全ての子への学力保障
- ・ 健康・安全・安心の学校づくり
- ・ 保護者・地域とともに歩む学校づくり
- ・ 教員の資質向上

### (4) 重点課題

#### ① 保護者・地域との連携

- ・ コミュニティ・スクールの実践
- ・ 情報発信
- ・ 地域住民・保護者の教育活動への参画
- ・ 地域福祉への貢献
- ・ 地域行事への積極参加
- ・ 地域におけるボランティア活動
- ・ 学校評価の充実と公表

#### ③ 健やかな体

- ・ 基本的生活習慣の確立
- ・ 食育の組織的・計画的・継続的な推進
- ・ 健康相談、保健指導の充実
- ・ 体力・運動能力の向上をめざした活動

#### ⑤ 生徒指導

- ・ 児童の生活実態や背景の理解
- ・ いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解消
- ・ 不登校の未然防止、早期発見、早期対応、早期解消
- ・ 規範意識の育成
- ・ 生徒指導委員会の定期開催

#### ② 確かな学力

- ・ 人権が尊重される授業づくり
- ・ 基礎学力の定着
- ・ 自ら考える力の育成
- ・ 指導体制・指導方法の工夫改善

#### ④ 豊かな心

- ・ 道徳の授業の質的向上
- ・ あいさつのあふれる学校と塩屋地区づくり
- ・ 「命を大切にする教育」の推進
- ・ しおっ子ファミリー活動の充実
- ・ 花と緑とハーモニーのあふれる学校生活
- ・ 心豊かな体験活動
- ・ いじめを許さない学校風土

#### ⑥ 児童をとりまく環境の整備

(校内環境)

- ・ 危険箇所、危険物の除去・改修
- ・ 清潔で衛生的な環境づくり
- ・ うるおいのある環境づくり

(言語環境)

- ・ 「くん」「さん」づけなど相手を尊重した呼び方の指導
- ・ 嘲笑や侮辱、厳しい非難の言葉を解消していく指導

### 【総合的な学校関係者評価】

- 課題としては、公共物や公共施設を大切にすマナー、施設使用後の清掃、整理整頓の指導。不登校の解消といじめへの対応の早期発見・早期対応・組織の対応の取り組み。保護者・地域住民の学校行事への参加。学校行事予定表を記載の学校便り回覧に目を通していない。
- 児童一人一人の個性を掴み、全員の学力向上を目指していく先生方の努力、指導力は大変であると思う。
- 児童一人一人を大切にしている。自己肯定感を高める取り組みは、人生を左右する重要な事であるため、充実を図ってほしい。
- 教師が児童に対して気持ちのよいあいさつができるよう指導している。
- 素直で思いやりのある行動が取れるように、道徳の授業等を通してよく指導されている。地域行事に参加している姿はとても気持ちがいい。
- 登下校のあいさつはよくできている。継続して伸ばしてほしい。自転車のヘルメットの着用もできている。
- 子どもたちに関わる事が多く、特に6年キャンプでは、楽しむ子どもたちの姿が見られてよかった。先生方も参加して、子どもと関わり続けてくれることが嬉しく思った。児童同士の関わり合いも見られてよかった。

【学校関係者評価】

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

2 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	項目	評価指標及び目標値(期待される児童の姿)			
①保護者・地域との連携	項目	児童の主体的な学びを尊重し、生涯学習社会を見据えた学校づくりに努めることができたか	児童アンケート 入学式 学級懇談会	A	○児童アンケート結果からも「学校に来ることが楽しい」と答えている児童が97%と数値は高かった。その反面、「いいえ」と答えた児童にも目をかけ、声かけや関わりを全職員がもつ必要がある。
	指標	毎日楽しく学校に来ている	保護者アンケート		
	項目	各通信・オープンスクール・ホームページなどで情報を提供したり、保護者からの相談を受けたりすることができる開かれた学校づくりに努めたか	児童アンケート	A	○学校、学年、学級だよりを通じて学校の様子を伝えていくことが保護者・地域の方の理解につながっている。今後も情報発信に努め、保護者・地域とのよりよい関係作りに継続して努める。 ○ホームページを定期的に更新することで、更なる開かれた学校作りを目指す。
	指標	忘れ物をせず、準備物がそろう	保護者アンケート		
	項目	学びの機会を充実するとともに、家庭と連携して学習習慣を身につけるように工夫したか	児童アンケート 学級懇談会 個別懇談会	A	○家庭学習のあり方(方法・量・内容など)を吟味し、児童が主体的に家庭学習を行えるように指導し、全職員共通理解のもと、家庭での学習習慣を確立させ学力向上を目指す。PTA総会や学級懇談会等を通じて、家庭学習の大切さについて伝えていく。
	指標	家庭学習を家庭でこなし、きちんと提出している	保護者アンケート		
②確かな学力	項目	児童の実態に応じた学習課題を設定し、意欲を持って、自ら学び、自ら考える力を育成するように努めたか	児童アンケート 学級懇談会	B	○全教科・領域において児童が関わり合えるような授業づくりを心がける。児童が互いに支え合い、認め合えるような主体的・対話的な学びの形へと近づけるよう心がける。
	指標	学校の勉強が楽しく分かりやすいと感じている	保護者アンケート		
	項目	基礎・基本的な内容を明確にし、評価の基準を定め、指導方法を工夫改善して理解の徹底を図ったか	児童アンケート 学力テスト等	B	○授業のめあてを児童に確実に提示し、学習の中身を一人一人の児童に把握させた上で授業を展開していく。また、学習理解が学習意欲向上につながるため、児童の実態を把握し、児童の興味・関心に合わせた教材を工夫し、スモールステップで達成感を味わわせながら意欲的に学習に取り組めるようにする。
	指標	学習内容を目当てに沿ってまとめたり発表したりすることができる	保護者アンケート		
	項目	家庭学習の定着及び充実を図ることができたか	児童アンケート	A	○家庭学習の大切さについて、児童・保護者ともに働きかける必要がある。保護者アンケートの中に、家庭学習についての質問事項を新たに加える。来年度に向けて家庭学習の手引きを作成する。
	指標	学年相応の漢字・計算を確実にこなすことができている	保護者アンケート		
③健やかな体	項目	「早寝・早起き・朝ごはん運動」を推進し、子ども達に声かけ等の働きかけをすることができたか	児童アンケート 学級懇談会	B	○児童アンケートにおいて「健やかな体」に関する項目の数値が低くなっている。アンケート等を活用し児童の実態調査を行うとともに、教職員全体で連携しながら、指導を行うようにする。
	指標	「早寝・早起き・朝ごはん運動」の目標を設定し、守っている	保護者アンケート		
	項目	望ましい食習慣を養う一助となるよう、給食の時間の充実を図ることができたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○偏食の多い児童や基本的に外で遊ばない児童に対して、積極的な関わりをしていなかった。家庭へも改善することの意識を訴えながら、体力づくり、身体づくりに意識が向かうようにする必要がある。
	指標	落ち着いた雰囲気の中で給食を食べている(準備・片づけ含む)			
	項目	一人一人の体力・運動能力の向上を目指し、外遊びを奨励したり、体育の時間の充実を図ることができたか	児童アンケート 個別の指導計画	A	○全校的な声かけを行うとともに、休み時間を十分に確保し、外遊びのしやすい環境作りに努める。 ○次年度も体育担当による体育授業の実技講習を積極的に行い、教員の資質向上に努める。
	指標	外で元気に遊んでいる	保護者アンケート		

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	○	・児童アンケートにおいて「学校にくることが楽しい」との数値が高いということは、学校行事、友達、学習の在り方等に努めた成果ではないか。 ・学校に来ることが楽しいが97%は高評価。3年生で100%はすごいことである。 ・学校に来ることが楽しくない児童は、何が原因で楽しくないのでしょうか。概ね楽しいと答えているので一安心。 ・高学年になるにしたがって提出物を出せていないようすが・・・もう少し声かけが必要なのでは。 ・自主学習や宿題のポイント制で、子どもはポイントを得るため必死に宿題をしているが、それが本当に身につけているのか、頭に入っているのか、少し不安を感じる。子どもはゲーム感覚で楽しいようだが・・・。
○	◎	・確かな学力は、低学年は学習したことをまとめたり、発表したりできたとの数値は大変高いのに、高学年になると数値は低くなって、少し学習意欲が下降するののか。意欲的に学習に取り組むように工夫・改善を図ってほしい。 ・学習したことをまとめたり発表したり項目で、高学年で低いのが気になる。遠慮しているのか。 ・個別指導がとても大切であると思う。
○	◎	・「早寝・早起き・朝ごはん運動」の推進は児童だけではなく、保護者とも行うことで生活習慣を養うことになり、未永く推進してほしい。また、外遊びは家庭ではあまり見かけないので学校で奨励して運動能力の向上を目指してもらいたい。 ・就寝時間や睡眠時間ゲーム等、家庭との連携を密にする。 ・給食時間は決められた時間内に食べ始めて食べ終わるように意識づけをすることが大切である。 ・早寝について、高学年になると習い事等も増え、遅い時間になってしまう。家庭ごとに工夫が必要。 ・体を動かすことが好きな子もいれば苦手な子もいるので、苦手な子も楽しめるような工夫が必要。(友達関係も重要)

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	項目	指標			
④豊かな心	項目	児童一人一人の実態を的確に捉え、全職員で共通理解して適切な指導を行うことができたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○教育支援委員会など各種委員会を定期的に行い、児童の実態を把握するとともに、児童に寄り添う指導を行う。
	指標	困ったことを相談することができる			
	項目	人権教育を全教育活動に位置づけ、差別や偏見を解消するため実践力を培うよう努めたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○特別活動の充実によって、多様な人との関わりを通して人権感覚の育成に努める。 ○児童同士が関わり合えるような場面を積極的に設定する。
	指標	友達の良さががんばりを見つけ、広めようとしている			
	項目	全ての教育活動の中で道徳性を培うように配慮し、道徳的実践力を育成するように努めたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○道徳教育の教科化に備えて、授業改善、授業研修の機会をもち、教職員の更なる指導力向上を図る。
	指標	道徳の時間で学んだ価値を、生活の中でいかそうとしている			
⑤生徒指導	項目	児童の実態を的確に把握し、生徒指導上の問題行動等を未然に防ぐよう働きかけるとともに、問題行動発生時には、適切に対応できたか	児童アンケート 学級懇談会 保護者アンケート	A	○学校のきまりや約束など、生活指導委員会を中心にその時期に応じた内容を話し合い、全職員共通理解のもと継続して指導にあたる。
	指標	きまりを守り、正しい生活を心がけている			
	項目	不登校に係る諸問題について、未然防止、早期発見、早期対応するとともに、早期解消に向け、保護者等との連絡を密にしなが、計画的に支援・指導ができたか	児童アンケート 保護者アンケート 学校生活アンケート	A	○不登校の未然防止に努めるために、不登校・児童虐待対策委員会の更なる充実を図るとともに、SSWやスクールカウンセラーと連携しながら、教職員の資質向上に努める。
	指標	困っている友達に関わろうとしている			
	項目	道徳性の向上と規範意識の醸成に向けて、計画的に指導できたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○道徳の授業の基本形をどの教師も実践できるよう研修を行い、週1時間の道徳の時間を確実に確保できるように努める。また、その場に応じた指導ができるように教師の指導力の向上を図る。
	指標	物事の善し悪しについて理解し、言動に表している			
⑥児童をとりまく環境の整備	項目	危険箇所、危険物の除去・改修等に心がけ、清潔で衛生的な環境整備に努めたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○毎月の安全点検を教職員が分担して行い、児童にとって危険な箇所を速やかに営繕できるように次年度も継続して行う。
	指標	生活目標をきちんと守って生活している			
	項目	教育活動を充実させるための教育的環境の整備に配慮し、研修内容を実践に活かし取り組んだか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○生活指導委員会等において無言で最後まで一生懸命掃除をすることを目標に掲げ、掃除力向上に努めてきた結果、確実に成果が現れているので、継続した取組を行う。
	指標	掃除をすることの意義を理解し、美しい環境を保っている			
	項目	友達を尊重した呼び方をし、相手への嘲笑や侮辱、厳しい非難の言葉を解消するよう指導できたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○継続的な呼びかけにより、友達を大切にしたい児童同士の声かけや関わりが定着してきている。引き続き、教職員が共通理解して指導していく必要がある。
	指標	友達を大切にしたい呼び方をしている			

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	・人権教育で差別や偏見を解消するために地域においても7月にDVD等見ただいているが、保護者の方は役員以外少ない参加です。積極的に参加して育成に努めてほしい。 ・児童の道徳性の項目は、児童アンケートの結果から見るとB評価は厳しいのでは。 ・「困ったことを相談することができる」の項目で困ったことは学校の中でのことなのか。困ったことがあれば先生に相談していいのかわかる具体的な内容を示すべきでは。
◎	○	・不登校に係る諸問題早期解消に向けて早期解消に向けての支援・指導は大変難しく思う。保護者との連携をとりながら、教職員の協働体制で取り組んでほしい。 ・自分の間違いを素直に認め、謝ることができるよう指導してほしい。
◎	◎	・危険箇所、危険物の除去改修等の安全点検を毎月教職員が行い、安全配慮に徹底し、環境整備に今後も努めてほしい。 ・友達のよさを認め、喜ぶことができるよう指導してほしい。 ・友達関係の呼び方、相手の気持ち、思いやり等できている子もいればやはりできていない子も・・・。

【自己評価における特記事項】

※達成状況の評価は、下記のA・B・C・Dで自己点検を行い、ポイントに換算し、教職員数で平均している。

A:達成した…4ポイント B:ほぼ達成した…3ポイント C:あまり達成できなかった…2ポイント D:達成できなかった…1ポイント

※職務内容が異なることから、評価項目全て当てはまるとは限らない。また、最終的に「児童アンケート」「保護者アンケート」を考慮した上で、達成状況の評価を決定している。

【項目以外の点で次年度の課題や具体的改善方法】

○学校行事の精選等を行うことで、学力向上に向けたじっくり学習に取り組む時間の確保。  
○来年度に引き継ぐ、つなぐことを考えた校務分掌の運営、学級学年経営をしておくことが大切。